



日本共産党  
北茨城市委員会  
議事録 発行1030-2

毎週 日曜日 発行

インターネットでも  
ご覧いただけます

http://www.kyokai.com/

ご相談は  
お気軽に

市議会議員  
福田 明  
43-0468

市議会議員  
鈴木 康子  
42-2462

# 医療と福祉の連携 宮城県 涌谷町を視察

## 町ぐるみで健康をまもるキメ細かな取り組み

市議会議員・鈴木康子



涌谷町町民医療福祉センターにて。右から、宇野隆子・常陸太田市議、涌谷町健康福祉課の高橋俊吾課長、福田明、鈴木康子両市議。

日本共産党北茨城市議団が取り組んだ岩手県の旧・沢内村と宮城県涌谷町の医療・福祉行政の視察報告の後編です。鈴木康子議員が報告します。

宮城県涌谷町は、仙台の北50kmに位置する人口約1万8千人の町です。医療と地域福祉を一体として取り組んでいます。前号で報告した沢内病院の事務長さんも「うちの精神は涌谷町で生きています」と紹介してくれました。

### 全国に先がけて

涌谷町では、30年ほど前に「病院建設準備対策室」が設置され、病院建設にあたっては地域福祉も同時に考えるべきとの大きな構想

が打ち出されました。

救急に対応できる中核病院というだけでなく、「市民の保健医療行政全般にわたる中枢機能を果たす施設」と位置づけられたのです。構想には、町出身の医療関係者の知恵と人脈も生かされました。

「みすみす赤字が予想されるものをつくるのか」という声もありました。しかし医療費の多くが町外に流れているのは明かであり、それを入院設備のある町の病院で受け止め、波及効果もあわせると、地域への経済効果は大きいと判断し、じつさい現在も黒字経営を達成しています。

今でこそ厚労省も、地域統括支援など医療と福祉の連携を言い始めていますが、当時と

しては画期的なことでした。全国からの視察が毎週、毎日のようにあつたそうです。

### 専門スタッフの充実

町の行政の福祉・保健部門の職員は、町立国保病院がある町民医療福祉センターで働いています。

町の保健師は11人(北茨城市は9人)。まず2年間は病院に勤務し、また病院の看護部長は保健師です。最初は職員にも抵抗感があつたそうですが、保健師が病院の実際や患者さんのようすを知っていることには大きな意味があると感じました。

さらに、リハビリなどの理学・作業・言語療法士は、総勢13人。訪問事業にも対応できる体制になっています。

同町では以前から、保健協力員、食生活改善推進員を委嘱し、行政区を細かく分けて健康教室等を開催してきました。これを発展させたのが「健康推進員制度」です。現在、314名(18世帯に一人の割合)の健康推進員が、地域の健康づくりの担い手となっています。病気の種類や、身体トラブルは地域ごとに特徴もあります。健康推進員が状



## 存分に海を見て来し鮫鯨鍋

「ねんりんピック茨城2007(第20回全国健康福祉祭いばらき大会)俳句交流大会in北茨城」が、小雨の続く天気でしたが、多くのボランティアに支えられ、盛大に開かれました。午前中は五浦で吟行、そして大会と表彰式は会場一杯の参加者。当日詠まれた俳句のなかから、千葉県・坂井よね子氏「存分に海を見て来し鮫鯨鍋」に大会会長特賞が贈られました。

況をよくつかみ、それに合わせた内容で、きめ細かく健康教室も開かれています。医師をはじめ、保健師、療法士、栄養士といった専門家が講師となって膝詰めで指導をしています。

### 町ぐるみで健康づくり

旧・沢内村では、4人の保健師が各戸訪問をくりかえし、健康指導や予防検診をしているほか、村民の中から各集落に保健指導員をおき、細かく情報交換をおこなっていました。

涌谷町でも、地域福祉や予防医療という観点からも専門スタッフをそろえ、住民ぐるみで健康を守る手厚い取り組みがすすめられています。まさに「沢内村の精神」が生きているのです。町民医療福祉センターが

掲げる目標には、「町民とセンター職員の相互協力により、町民一人ひとりが「安らかに生まれ」「健やかに育ち」「朗らかに働き」「和やかに老いる」ことを通して、その人らしいかけがえのない人生を送ることをめざします」とあります。

この間、涌谷町も隣接町と合併協議会がもたれたそうです。しかし、これまでに町民の手で築いてきた医療・福祉のシステムをこわしてはいけないと、住民投票で合併を拒否しています。

町の健康福祉課の課長さんは、かつての病院建設準備対策室の責任者だった方です。今回の視察にさいして、「町民のために」と何度も強調し、それを行政のなかで実践している姿に強い感銘を受けました。